

研究主題「互いを認め、自尊心を高める学習活動（特別活動キャリア教育）のあり方」

研究方法 中学校 特別活動
所沢市立中央中学校 上田慎之介

I 研究主題設定の理由

1 特別活動と学級活動

特別活動の目標は、学習指導要領第5章の第1「目標」で、次のように示している。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

冒頭の「望ましい集団活動を通して」がキーワードとなり、特別活動の特質と方法原理を示している。特別活動においては、生徒が自主的、実践的に集団活動を展開し、その間の生徒の相互作用を第一義とするので、「望ましい集団活動」を実現していくことが最も直接的な目標になる。特に集団の各成員が互いに人格を尊重し合い、個人を集団に埋没させることなく、それぞれの個性を認め合い、伸ばしていくような活動を行うとともに、民主的な手続きを通して、集団の目指すべき目標や集団規範を設定し、互いに協力し合って望ましい人間関係を築き、充実した学校生活を実現していくことが必要である。自己のよさを積極的に生かすことができるようなしっかりとした個を育てつつ、集団に貢献することができる態度を育てていく指導が求められている。集団力を高めて個を育てるのである。

集団や社会の成員としての資質を身につける自主的、実践的な態度を育てることを目標としているが、よりよい生活を築く態度の育成とよりよい人間関係を築く態度の育成を一体にして指導する必要がある。また、人間としての生き方についての自覚を深めるとともに、現在及び将来にわたって自己実現を図る能力、すなわち、自己を生かす能力を養うという目標を掲げている。これらは生徒に「生きる力」を育むことを目指した学校全体の教育活動として展開されていくべきものである。特別活動を中心にして学校生活の中で集団活動を経験することで人間関係を形成する能力を身につけていくよう指導していくのである。

人間関係は、実践的な集団活動を通して学んでいくしかない。他者とのよりよい人間関係を築こうと努力し続ける子供を育てることが、特別活動において人間関係形成能力を高めることになる。特別活動は、社会での生き方や社会性を身につけるために、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、生徒の人間形成を図る教育活動である。

なお、特別活動は、本来生徒の自主的、実践的な態度や自己を生かす能力の育成を目指すものであるが、生徒の発達段階から考えて、教師の適切な指導・助言が大切であることはいうまでもない。

特別活動は、学級活動、生徒会活動及び学校行事の各内容から構成されている。その中でも学級活動は、生徒の学校における基礎的な生活単位ともいべき学級集団を基盤として行われる活動であり、学校生活の全般に関わる事柄を扱うので、特別活動の3つの内容の中心的な役割を果たすと考えられる。生徒会活動や学校行事への参加や協力及び活動の仕方をはじめ、それらの活動の過程で生じる様々な問題への対処の仕方なども、基本的には学級活動で取り上げることになる。

学級活動では、言語活動の充実を図る観点から、話し合い活動を通して互いに納得しあえる表現を身につけるとともに、生徒の自発的、自治的な活動が一層高まるように、生徒が主体となっ

て話し合い活動を展開できるようにする。ただし、活動のねらいを達成するために、あくまでも教師の適切な指導の下に活動できるようにすることが重要である。たとえば、意見が話し合いの中心からそれた場合に方向を示唆するだけでなく、道徳的価値を深めることにつながる発言を賞賛するなど、活動意欲を高め自治的に創意工夫した活動ができる助言に心がけることが望ましい。また、折り合いをつけた集団決定を心がけさせることで、人間関係を形成する力を育成する。

2 職業を取り巻く現状とキャリア教育

今日、勤労や職業に対する理解の不足や安易な考え方など、若者の勤労観・職業観の未成熟さが指摘されている。ニート（Not in Education, Employment or Training）と呼ばれる働かない若者の増加が叫ばれて久しい。彼らは就職もせず、就職活動や職業訓練もしようとしない若者であり、現在は60万人を超え、10年前の1.5倍に増えている。また、今春卒業予定の大学生の就職内定率が過去最低の68.8%（昨年12月1日時点）と発表されるなど、「超氷河期」と言われる就職状況の中、フリーターと呼ばれる定職に就かない若者や、求職と求人のミスマッチも問題となっている。そうかと言えば、希望して念願の職種に就職したにもかかわらず、3年はおろか、1年も経たずに辞めてしまう者もいる。それだけに、望ましい勤労観・職業観をはぐくむことは、進路指導、さらにはキャリア教育にとって重要な課題である。このような若者を取り巻く情勢の中、早期の職業教育の重要性が叫ばれ、平成15年には「13歳のハローワーク」が出版され、埼玉県教育委員会では平成12年度より中学生社会体験チャレンジ事業「5つのふれあい3daysチャレンジ」を実施し、現在も各学校に受け継がれている。これらの取り組みや施策が諸問題の解決に寄与しているかどうかについては今後の動向を待たねばならないが、とりわけ中学校における職業教育が重要であることに変わりはない。

もちろんかねてから学級活動においてもキャリア教育は取り上げられてきており、その役割を果たしてきたに違いない。しかし、最近の情勢を踏まえ、より一層の充実した活動が望まれていることは誰しもが認めるところであろう。

一方、かつては集団で協力して築いてきた日本社会であったが、個人が大切にされるあまり、悪く言えばわがままな人達のはびこる世の中になってしまった。もちろん多種多様な生き方を尊重するのはよいことであるが、自分さえよければという考えがあまりにもまかり通ってしまっているような気がする。学校現場でも、話が終わるまで待ちきれず、話をしている人に話しかけて「無視された」と平気で言うような、自分のことしか考えられない生徒が増えてきている。

このような実情を踏まえながら、いろいろな職業があることを学習することを通して、互いを認め望ましい人間関係を築くことができるようにするとともに、自尊心を高め未来を拓く生徒の育成を目指すために、一人一人が自分自身を探究できる教師の支援の在り方を研究することで、自主的生徒の育成ができると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法

今回の学習指導要領の改訂では、特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視するとの基本方針が示された。また、自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動を一層重視するとも示されている。特に体験活動につい

ては、体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視することを受けて生徒の活動を組み立てていくこととした。

望ましい集団活動を進めることそのものが特別活動の特質であり、また特別活動の目標を達成するための方法原理であると考えられることから、生徒の相互作用を通して、自主的、実践的に集団活動を展開し、「望ましい集団活動」を実現していくことが最も直接的な目標になる。そのため、本学級では司会、副司会、書記、議事録からなる学級活動委員会を輪番制で組織し、学級活動の司会進行を任せた。そして、学級活動委員会は進行や準備等が円滑に行われる様に、司会や書記などの役割を持たない生徒も出てきてしまうが、清掃当番や給食当番などと同じ生活班を基盤として構成することとした。学級活動の司会進行はこの学級活動委員会が行い、前回は1班なら今回は2班、次回は3班というように毎回交代していった。学級活動の司会進行については学級活動委員会と教師が事前に打合せをしたり、適時指導をしたりするなどして円滑に行われるよう配慮した。

一方、課題については、教師が意図的に生徒の抱える問題を提示し、生徒自ら自分自身の問題に取り組み、その解決を図るための自主的、実践的な態度を養えるように設定するよう工夫した。

自己と社会との関わりを考える中学生の時期を捉え、生徒が、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度を持つことができるよう心がけた。また生徒が働くことの楽しさや厳しさを知り、勤労や職業についての関心・意欲を高めることができるように指導し、1月に実施する職場体験に向けての準備ができるようにした。さらに人が勤労や職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適正を発揮していることが理解できるよう道徳の時間でも適切な題材を使って指導の充実を図ってきた。

生徒は、学級や学校の一員として学校生活を送るとともに、家庭や地域の一員として生活しているのであるから、学級活動の指導においては、家庭や地域との連携・協力が重要な意味を持っている。学習指導要領に示された内容の(3)「学業と進路」などは、生徒の家庭生活との関連が深く、家庭と連携・協力することによって、より効果的な学級活動を展開していくことが可能となるため、今回の学級活動においても家庭の協力を求めた。

以上の方針の下に授業を組み立てるとともに、東京学芸大学教育学部総合教育科学系林尚示先生に御指導をいただき、中学校の学級活動でのキャリア教育は生徒の学力や生徒指導上の諸問題に影響を与えることの検証を試みた。

III 実践事例

今回の授業実践では、「仕事と夢」を題材に設定し、保護者など自分の身のまわりの人の体験談を取り入れながら、話し合ったり、発表したりする活動を考えた。

第 1 学年 1 組 学級活動指導案

日時 平成22年11月30日(火) 第5校時
 場所 所沢市立中央中学校 0棟2階被服室
 指導者 教諭 上田 慎之介
 生徒数 男子 21名 女子 19名 計 40名

- 1 題材 「 仕事と夢 」
 内容(3)学業と進路 Ⅱ 望ましい勤労観・ 職業観の形成

2 題材設定の理由

生徒は期待や不安を抱いて中学校という新しい環境に入ってくる。本校では4 つの小学校から生徒が入学してくることもあり、様々な不安を抱えている実態がある。このような環境に加え、いわゆる中1 ギャップによる学校不適應への対応も合わせ、ガイダンスの機能を充実させ充分配慮する必要がある。本校では入学直後に行う「 宿泊学習」によって、人間関係やコミュニケーション能力を培ってきた。

先般実施したアンケート 調査では、1 年1 組においては、全般的に学校生活への満足度は高く、学級での居心地にも肯定感が強い傾向が見られる。一部の生徒が学習に不安を抱きながらも、宿泊学習の試練を乗り越えてきたせいも、悩みを感じている生徒は少ない。

ところで、生徒は「 進路」イコール「 高校進学」ととらえがちであるが、将来どんな職業に就きたいかを考えている生徒はクラスの半数を超える。しかし、漠然としたイメージとしてとらえている生徒がほとんどであると思われる。実社会においても、特に若者の勤労観や職業観の未成熟さが指摘されている。それだけに、この時期に望ましい勤労観・ 職業観を育むことは、進路指導、さらにはキャリア教育にとっても重要な課題である。

このような課題を踏まえ、新しい環境の中で豊かな人間関係を築きながら、様々な社会的役割や職業について理解すると共に、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、自分の夢に向かって生きがいのある人生を築こうとする意欲・ 態度の育成を図り、将来、社会人として自立し、職業に誇りを持って働くための礎を築く。

3 指導のねらい

- (1)人は、勤労や職業を通じて自己の能力や適性を生かし社会の一員としての役割を果たしていることを理解させる。
- (2)働くことの楽しさや厳しさを知り、勤労や職業についての関心・ 意欲を高める。
- (3)自分の将来の夢や希望を持ち、自分の生き方に関心を深めるとともに、他人の考えや生き方を認める。

4 展開の過程

(1)事前の指導と生徒の活動

月 日	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点
10月18日	帰りの会	学級全体	・ インタビュー用紙に記入を始める。	・ 質問内容やマナーの指導をする。
11月1 0日	学活	学級全体	・ 質問シートに記入。話し合い。発表。	・ 全員が記入できるように指導する。
11月17日	学活	学級全体	・ 質問シートに記入。話し合い。発表。	・ 全員が記入できるように指導する。
11月24日	学活	学級全体	・ 質問シートに記入。話し合い。発表。	・ 全員が記入できるように指導する。
11月29日	放課後	学級活動委員会	・ 司会者と打ち合わせ及びリハーサル。	・ 円滑に運営ができるようにさせる。
11月30日	特別活動研修会	学級全体	・ 班での話し合い。全体での	・ 話し合いに集中するよう配慮する。
12月1日	学活	学級全体	・ 質問シートに記入する。	・ 全員が記入できるように指導する。

(2)本時の活動テーマ

「 人は何のために働くのか考える」

(3)本時のねらいについて

- ア インタビューや発表・ 話し合いを通して、望ましい勤労観・ 職業観を育成する。
 イ 自分の将来の夢や希望を持ち、自分の生き方に関心を深める。
 ウ 互いの夢や希望を認め合い、望ましい人間関係を築く。

(4) 本題材における具体的な評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自己の生き方、働くことなどに関心を持ち、話し合いに積極的に取り組もうとする。	自己の将来の夢や生き方について考え、その実現に向けて、今何を学ばなければならないかを考え、自ら判断している。	勤労や職業について必要な情報を収集、活用し、進路選択について主体的に考えたことを整理して表現することができる。	働くことの意義や進路選択に必要な情報収集の仕方などを知り、自分の生き方に対しての生かし方が分かる。

(5) 本時の展開

過程	活動の内容	指導上の留意点	評価の観点	資料等
活動の開始	1 学級活動委員会の開会の言葉 2 本時のねらいを知る 人は何のために働くのか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 生活班ごとに座席を向き合わせて、グループごとに話しやすい環境にする。 事前に大人にインタビューした体験を思い出せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言者の話を真剣に聞き、活動への意欲を喚起できる。(関心・意欲・態度/観察法) 	インタビュー用紙
活動の展開	3 インタビューした内容の話し合い ①仕事は何ですか ②仕事のどんなところが楽しいですか。 ③その仕事を続けているのはなぜですか。 ④夢は何ですか。 4 各班の発表	<ul style="list-style-type: none"> 班長が司会者となり、お互い発表し、気づいたことをメモする。 各班で気づいたことをまとめ、発表者を決める。 司会者が、時間を見ながら各班の発表者を指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを正確に表現できる。(技能・表現/観察法) メモをしながら、静かに話を聞くことができる。(関心・意欲・態度/観察法) 	インタビュー用紙 ワークシート
活動のまとめ	6 今後の努力事項の決定 7 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員として、自分の役割を自覚できるようにする 考える時間を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢をさらに抱き、生活改善の意識を高める。(思考・判断/自己評価表) 	自己評価シート 質問シート

(6) 本時の評価

- ア 話し合い活動の中で、生徒一人一人が問題解決をしている。
- イ 望ましい勤労観・職業観をもち、主体的に自己の能力・適性を生かそうとしている。

(7) 事後の指導と生徒の活動

- ア 将来の夢を実現するために、自己評価カードや質問シートを用い、個別面談等で今すべきことを指導する。
- イ 授業の様子や生徒の感想を学級通信や三者相談等で保護者に紹介し、家庭でも関心をもって話題にできるようにする。

- ・ 10人の大人にインタビューをする。
- ・ 質問は4つ

- ① 仕事は何ですか。
- ② 仕事のどんなところが楽しいですか。
- ③ その仕事を続けているのはなぜですか。
- ④ 夢は何ですか。

	インタビューの相手 (名前またはあなたとの 関係(おじ、隣人等))	①仕事は何ですか。	②仕事のどんなところが 楽しいですか。	③その仕事を続けてい るのはなぜですか。	④夢は何ですか。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

自己評価カード
テーマ:「仕事と夢」

実施日 平成22年11月30日

1年 組 番 氏名

- 1 今日の学級活動の話し合いを通して、あなたが感じたり考えたりしたことを答えてください。

はい 4 ←← →→ いいえ 1

- ① 議題について、自分で積極的に考えましたか。

4 3 2 1

- ② 議題について、具体的に自分の考え方を積極的に発表しましたか。

4 3 2 1

- ③ 班のみんなと心を開いて話し合うことができましたか。

4 3 2 1

- ④ 相手の話を真剣に聞くことができましたか。

4 3 2 1

- ⑤ 話し合いの中で気づきがありましたか。

4 3 2 1

- ⑥ なぜ働くのか自分の考えや意見を言うことができますか。

4 3 2 1

- 2 あなたの夢は何ですか。

- 3 今日の学級活動の話し合いを通して、気づいたこと、感じたことを書いてください。

生徒の感想

今日の学級活動の話し合いを通して、気づいたこと、感じたことを書いてください。

今日の学級活動の話し合いを通して、気づいたこと、感じたことを書いてください。 みんな夢がある	今日の学級活動の話し合いを通して、気づいたこと、感じたことを書いてください。 話し合いが終り
みんな夢があって いいと思った。	意外に真剣 にやたら楽しかった。
みんな、夢ばかり やってけなげな える	職業のビュースして、大人 の人はみんな現実的に 考えてる事が多くて、び っくりしました。



IV 研究の成果

1 アンケートの分析

実施日 事前調査（11/15） 事後調査（12/6）

（N=40人）

- （1）職業希望の意識については、希望の度合いが少なくなった生徒もいるが、全体としては意識は高まり、具体的な職業名を記述する生徒も増えた。
- （2）勤労に対する価値的な認識が高まった。
- （3）話し合いを通して、人間関係はよりよくなった。
- （4）中間テストの前後とかぶったせい、学業と進路の項目は軒並み低下している。
学級活動での望ましい勤労観・職業観の形成の項目については横ばいであった。
- （5）集団活動への関心や意欲は下がったものの、態度はよくなったと感じる生徒の割合は増えた。
- （6）中間テストの前後とかぶったせい、学習への意欲は低下した。

しかし、いずれも差はわずかであり、大きな差があるとは言い切れないかもしれない。しかも、この調査の間に生徒の生活を大きく左右する定期テストのような行事も入っており、当該授業以外の要因が作用した可能性も否定できない。

職業アンケート 1年 組 番 氏名

1 将来どんな職業に就きたいですか。

- | | | | | | |
|------------------|--------|----------------|-----------|------------------|--------|
| ① 畑で農作物を育てたい | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |
| ② 工場での作り手 | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |
| ③ ものやサービスを売ってみたい | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |

また具体的な職業が決まっている人は書いてください。()

2 中学校を卒業したら、どうしますか。当てはまるものの記号に○を付けてください。

- | | | | | | |
|-------------------|--------|----------------|-----------|------------------|--------|
| あ 普通高校進学 | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |
| い 専門高校進学(工業高校、農業) | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |
| う 就職 | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |
| え その他 | 5 そう思う | 4 どちらかといえばそう思う | 3 どちらでもない | 2 どちらかといえばそう思わない | 1 思わない |

3 働くことは大切だと思う。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

4 どうして仕事をしなければいけないのか説明できる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

5 いろんな職業があるのは良いことだと思う。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

6 職業は人生にとってなくてはならないものである。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

7 クラスは、みんな仲良しである。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

8 自分はクラスのために役立っている。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

9 嫌なことから逃げない。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

10 健全に生活しようとしている。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

11 学ぶことは将来のために必要である。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

12 分からないことを自分で図書館で調べたことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

13 自分はどんなことに向いているか知っている。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

14 学活で仕事の大切さを学んだ。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

15 自分の将来を自分で決めようとしている。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

16 みんなで活動することは楽しい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

17 みんなで活動したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

18 きちんと集団行動できる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

19 クラスの一員として考えることができる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

20 クラスの一員として判断して決めることができる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

21 クラスの一員として行動できる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

22 集団ではどうすべきか知っている。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

23 個人と集団ではどう違うかわかる。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

24 友達に暴力をふるったことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

25 先生に暴力をふるったことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

26 人に暴力をふるったことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

27 学校の物を壊したことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

28 いじめたことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

29 いじめられたことがある。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

30 国語を学習したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

31 社会を学習したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

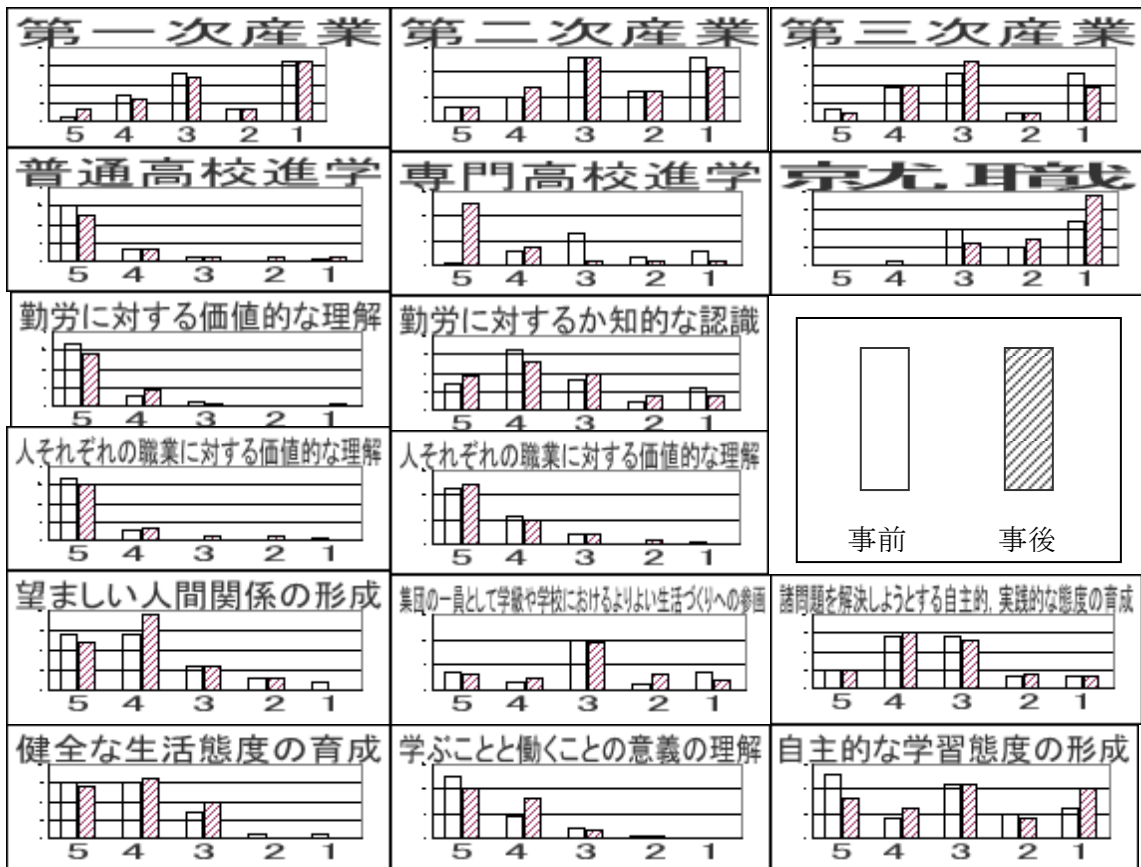
32 数学を学習したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

33 理科を学習したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

34 英語を学習したい。 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない 2 どちらかといえばそう思わない 1 思わない

アンケート集計結果

カテゴリ	要素	要素の下位項目
キャリア教育	職業希望	第一次産業 第二次産業 第三次産業
	進路希望	普通高校進学 専門高校進学 就職 その他
	勤労観	勤労に対する価値的な理解 勤労に対する価値的な認識
	職業観	人それぞれの職業に対する価値的な理解 人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識
学習指導要領	学級活動の目標	望ましい人間関係の形成 集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりへの参画 諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度の育成 健全な生活態度の育成
	学業と進路の内容との関連	学ぶことと働くことの意義の理解 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 進路適性の吟味と進路情報の活用 学級活動での望ましい勤労観・職業観の形成 主体的な進路の選択と将来設計
生徒指導要録	指導用要録による学習の記録	集団活動や生活への関心 集団活動や生活への意欲 集団活動や生活への態度 集団や社会の一員としての思考 集団や社会の一員としての判断 集団や社会の一員としての実践 集団活動や生活についての知識 集団活動や生活についての理解
生徒指導上の諸問	暴力行為	生徒間暴力 対教師暴力 対人暴力 器物損壊
	いじめ	加害 被害
学力	不登校	欠席日数の月別割合
	国語の学習意欲	学習への積極性
	社会の学習意欲	学習への積極性
	数学の学習意欲	学習への積極性
	理科の学習意欲	学習への積極性
英語の学習意欲	学習への積極性	



アンケート項目	設問番号	事前調査					事後調査					事前調査平均値	事後調査平均値	差
		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			
畑で農作物を育てたい	1①	1	7	13	3	16	3	6	12	3	16	2.35	2.43	0.07
工場でものを作りたい	1②	3	5	13	6	13	3	7	13	6	11	2.48	2.63	0.15
ものやサービスを売ってみたい	1③	3	9	13	2	13	2	10	16	2	9	2.68	2.85	0.17
具体的職業記述												13	18	5
2あ		30	6	2	0	1	25	7	2	2	2	4.64	4.34	-0.30
中学校を卒業したら、どうしますか。当てはまるものの記号に○を付けてください。	2い	1	6	13	3	6	2	6	11	5	9	2.76	2.61	-0.15
	2う	0	1	10	5	12	0	0	6	7	19	2.00	1.59	-0.41
	2え	0	1	6	4	9	2	0	3	2	11	1.95	1.89	-0.06
働くことは大切だと思う。	3	33	5	2	0	0	28	9	1	0	1	4.78	4.62	-0.16
どうして仕事をしなければいけないのか説明できる。	4	7	16	8	2	6	9	13	10	4	4	3.41	3.48	0.06
いろんな職業があるのは良いことだと思う。	5	33	5	0	0	1	30	6	2	2	0	4.77	4.60	-0.17
職業は人生にとってなくてはならないものである。	6	23	11	4	0	1	24	10	4	2	0	4.41	4.40	-0.01
クラスは、みんな仲良しである。	7	14	14	6	3	2	12	19	6	3	0	3.90	4.00	0.10
自分はそのために役立っている。	8	7	3	20	2	7	6	5	19	6	4	3.03	3.08	0.05
嫌なことから逃げない。	9	5	14	14	3	3	5	15	13	4	3	3.38	3.38	-0.01
健全に生活しようとしている。	10	15	15	7	1	1	14	16	10	0	0	4.08	4.10	0.02
学ぶことは将来のために必要である。	11	25	9	4	1	0	20	16	3	1	0	4.49	4.38	-0.11
分からないことを自分で図書室で調べたことがある。	12	13	4	11	5	6	8	6	11	4	10	3.33	2.95	-0.38
自分はどんなことに向いているか知っている。	13	7	10	13	7	2	6	9	18	6	1	3.33	3.33	-0.01
学活で仕事の大切さを学んだ。	14	12	16	6	2	3	10	16	10	2	1	3.82	3.82	0.00
自分の将来を自分で決めようとしている。	15	24	9	5	1	0	22	10	5	2	0	4.44	4.33	-0.10
みんなで活動することは楽しい。	16	20	12	5	2	0	16	14	7	2	0	4.28	4.13	-0.15
みんなで活動したい。	17	15	14	10	0	0	14	15	9	2	0	4.13	4.03	-0.10
きちんと集団行動できる。	18	10	14	12	2	1	8	18	11	3	0	3.77	3.78	0.01
クラスの一員として考えることができる。	19	8	16	12	2	1	6	15	16	2	1	3.72	3.58	-0.14
クラスの一員として判断して決めることができる。	20	7	16	14	2	0	5	16	18	1	0	3.72	3.63	-0.09
クラスの一員として行動できる。	21	10	15	13	1	0	5	23	9	3	0	3.87	3.75	-0.12
集団ではどうすべきか知っている。	22	8	17	13	0	1	10	18	10	1	1	3.79	3.88	0.08
個人と集団ではどう違うかわかる。	23	18	13	7	0	1	17	13	9	1	0	4.21	4.15	-0.06
友達に暴力をふるったことがある。	24	6	5	11	5	12	7	4	9	6	14	2.69	2.60	-0.09
先生に暴力をふるったことがある。	25	0	1	3	3	32	0	1	7	2	30	1.31	1.48	0.17
人に暴力をふるったことがある。	26	5	10	7	3	14	6	9	6	1	16	2.72	2.68	-0.03
学校の物を壊したことがある。	27	5	2	3	1	28	6	3	3	2	26	1.85	2.03	0.18
いじめたことがある。	28	2	6	9	2	20	2	3	8	4	23	2.18	1.93	-0.25
いじめられたことがある。	29	2	2	6	3	26	2	1	8	5	22	1.74	1.84	0.10
												0	0	0
国語を学習したい。	30	15	10	8	0	5	11	12	10	1	6	3.79	3.53	-0.26
社会を学習したい。	31	18	7	8	0	6	15	9	11	0	5	3.79	3.73	-0.07
数学を学習したい。	32	18	6	7	2	5	13	8	12	2	4	3.79	3.62	-0.17
理科を学習したい。	33	19	4	8	4	4	13	7	11	4	4	3.77	3.54	-0.23
英語を学習したい。	34	21	6	5	0	7	18	6	9	2	5	3.87	3.75	-0.12
												3.43	3.37	-0.06



2 生徒の成長

事前の大人への職業インタビューを通して、自分の両親や大人に対する見方が変わった生徒が数多くいた。

いろいろな職業があることを知ること、大人の職業に対するスタンスを知ること、それぞれの人の職業に対する思いや期待があることを知ること、いろいろな人の立場や考えを認めることができるようになった。

V 今後の課題

今回に限らず別の機会でも「将来やりたい仕事は何ですか」という質問のアンケートを採っているが、クラスの6割の生徒が具体的な職業名を挙げている。これは1年1組に限らず、所沢市立中央中学校第1学年全般に見られる傾向である。このアンケートは現在の高校1年生が昨年中学3年生の時点でも実施したが、具体的に職業を書いた生徒は一番多かった卒業直前においても6割に満たなかった。このことから、おそらく現在の中学1年生の方が、3年前の中学1年生よりも小学校の段階で職業教育をより多くの時間受けてきているのではないかと考えられる。今後は、小学校との連携の中でこの傾向の検証をし、その後の効果を見極めていくことが、これからの職業の学習の効率をより高めることにつながるのではないかと思う。

また、上記アンケート調査の方が、今回の学活で行ったアンケートの実に7割増の生徒がアンケートに答えている。学活でのアンケート調査の方が項目数が多く煩雑であるなど調査方法にも問題があるであろうし、もちろんその改善も必要であろうが、学級活動の時間だけでのキャリア教育には限界があると感じた。

「将来、科学を使う仕事をしたいか」という質問もしているが、「看護師」や「動物学者」など明らかに科学を使う仕事を希望しているにもかかわらず、ほとんどの生徒が「したいとは思わない」と回答している。原因としては、自分が希望する職業の内容をイメージで捉えているだけであることなどいろいろ考えられるが、昨今の理科離れと言われる現象と関係しているのかもしれない。もちろんほとんどの職業は科学と関連しているのであり、それを生徒に伝えることが中学校理科教師の使命であると強く感じた。実際、定期テストの後など、授業で話をすることで、生徒の意識が「したいとは思わない」から「したい」に変わってきていると自負している。

中学生が実際に接している、知っている職業は全体の職業からすればごくわずかに過ぎない。その生徒の職業に対する視野を広げることは、近い将来、生徒が実際に就職するときに、職業選択の幅を広げることにつながり、職業のミスマッチの問題も少なからず解消されることが期待できる。そのためにも、限られた学級活動の時間だけではなく、教科の授業の時間やそれ以外の時間も含めて、全ての教員が職業の話を持ってやることで、生徒の可能性を広げることに重要な役割を果たすのではないかと信じている。

今回の授業実践とその準備のインタビューにおいて、生徒に大きな影響を与えたことは間違いない。だが、たった1時間の授業実践あるいは学級活動における(3)「学業と進路」に配当された時間の範囲内では、生徒の職業選択に与える影響はごく限られたものである。「職場体験」が実施される学校行事や総合的な学習の時間での扱いの方が、時間も長い分生徒への影響もそれなりに大きくなる。しかし、学級活動は、たとえ配当された時間は短くとも、3年間を見通した指導計画の中で計画的に指導していくのであるから、各教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連の中でも、キャリア教育の中核として位置づけていきたい。